

年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、イチロー選手のメジャー通算3千本安打達成やリオ五輪でのメダル獲得数の史上最多更新、鹿島アントラーズのサッカークラブW杯決勝進出など、スポーツの世界で日本が大きく躍進し、多くの感動に包まれるとともに、熊本や鳥取の地震、東北・北海道で猛威を振った台風10号など、頻発する自然災害の中で、助け合いの輪が広がった年でもありました。

県内では、有料老人ホームや障害者支援施設で大変痛ましい事件が起こり、言葉では表せない程の深い悲しみや衝撃を社会に与えました。県が定めた「ともに生きる社会かながわ憲章」も踏まえ、改めて思いを巡らせてみますと、社会全体が命の尊さや個人の尊厳について考えを深め、一人ひとりの暮らしを大切にしながら、互いに尊重し合い、ともに生きる福祉社会づくりを進めていくことの重要性を感じます。

社会福祉法人制度改革とともに進められている、地域共生社会の実現に向けた我が事・丸ごとの地域づくりの考え方は、これまで社協が取り組んできた住民相互の支え合い・助け合いの地域づくりそのものであり、地域福祉の一層の推進に向けて、世代や立場を超えて、人々の優しさや思いやりの心を育みながら、皆で一緒に取り組んでいきたいと考えています。

時代が大きく変化しても、支え合いの地域づくり、ともに生きる福祉社会づくり、言葉はさまざまですが、その本質が変わることはありません。分野や種別を超えて、幅広い関係者が参加・協働する本会の特性を活かして、持てる力を結集しながら、オール神奈川でこうした機運を盛り上げていくことが大切です。二年次となる本会活動推進計画の基本理念「住民の主体的参加と様々な主体との協働による誰もが安心して生活できる地域づくりの推進」を目指して原点に立ち返り、できる人が・できる時に・できる所で・できることを一緒に取り組んでいくことを所信にしたいと思います。

本年も皆様のお力添えを賜りながら、未来の希望へつながる努力をしてまいりますので、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。年頭の挨拶といたします。



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治

ともに生きる福祉社会をめざして、各種基金を活用した取り組みから

■思いやりの燈をつなぐ

本会では、「ともしび基金」をはじめ、「かながわ交通遺児援護基金」などがわ子ども福祉基金」等の各種基金への寄附金とともに、さまざまな物品のご寄附等、多くの皆さまより地域福祉の推進に向けたご支援・ご協力をいただいております。

福祉活動への参加の形は多様ですが、寄附や寄贈も大切な形の一つです。本号では各種基金の活用状況のご報告をするとともに、昨年12月にご寄附をいただいた皆さまをご紹介します。

■地域福祉活動の充実・福祉意識の普及啓発に向けて

「ともしび基金」

「ともしび基金」は、昭和52年に「ともに生きる福祉社会づくり」の推進を目的に創設されました。県民の皆さまからの温かい支援により、平成28年11月末現在で原資は23億2千百万円となっています。

12月は、この一年間に「ともしび基金」にお寄せいただいた寄附金の集結作業を実施しています。集結では、ともしび基金募金箱の設置にご協力いただいている県内各地のスーパーやボウリング場、公衆浴場、J

A（農協）、ともしびショップ、病院、警察署、県の行政機関窓口から

寄附金が集められます。

福祉意識の普及啓発やボランティア活動への支援、障害のある方への社会参加の促進や市町村域での地域福祉の推進を目的とした活動への助成等、「ともしび基金」はさまざまな形で活用されています。その一つとして「ともしびショップ」の運営に対する支援があります。

ともしびショップは、障害のある方が働くことを実感し、仲間や地域の方々とのふれあいを通して、自立と社会参加を実現することを目指し、本会が認定している喫茶店や売店です。平成元年に第1号店がオープンして以来、県内各地の公共施設や公園などに併設され、平成28年12月末現在で40店舗が営業しています。

誕生以来20年余りの年月を重ねる中、時代の変化もあり、現在のともしびショップは、障害のある人や生きづらさを抱える人々の働く場であるとともに、そのような方々の居場所や地域住民の交流の場として生まれ変わりつつあります。こうした「地域交流型」ともしびショップの取り組みをご紹介します。

横浜市栄区にある「ともしびショップエム10」では、毎月第2金曜日、地域の方々が集まるお茶会「ポエムでお茶しましょう」を開催しています。



「ボエムでお茶しましょう」活動の様子。和気あいあいとした雰囲気の中で行われている

お茶会には集まったメンバーがおしゃべりをしたり、手芸を教え合ったりして、同じ地域に暮らす人同士の交流と癒しの場になっています。

この日は、ランチタイムを終え一息ついた店内で、就労支援の施設から来たシヨップのスタッフ等が通常業務を行う中、ボランティアスタッフの軽やかな司会により、店の一画でお茶会が始まりました。常連客の一人でもある島田英子さんが講師となり、デイサービスで教わったという折り紙によるリース作りが行われ、参加者から「定規取って」「糊はある？」などの言葉が飛び交い、皆が夢中になっていました。

店長の中和子さんは「高齢者も若者も、障害のある人もない人も、国籍が違っても皆で一緒に働き、誰もが気軽に集える場所を目指してきました。7年目を迎え、地域の中の居場所、交流の拠点として浸透してきたように感じています」と力強く語ります。取材を通じ、このような活動が積み重なることによって、ともしびシヨップが着実に地域の方々の交流の場と

なっていることを実感しました。

また、福祉意識の普及啓発に向けた取り組みの一つとして「福祉作文コンクール」の開催があります。

このコンクールは、子どもたちの「おもいやり」や「たすけあい」の心を育み、「ともに生きる福祉社会」について、日常生活を通じて感じたことと、考えていること、体験したことなどを自由に表現してもらおう作文のコンクールとして県共同募金会との共催により開催、本年度で40回を迎えました。コンクールには県内の小・中学校より多数の応募があり、その中から特に優秀と認められる作品には表彰状が授与されます。

去る12月17日に開催した表彰式の様子については、本号10面「県社協のひろば」に掲載していますが、ここでは全応募作品を代表し、県教育長賞（小学生の部）を受賞した、二宮珠生さん（大磯町立国府小学校六年）の作文をご紹介します。

なお、本会ホームページでは本作品を含む最優秀賞15作品を掲載していますので、子どもたちの心のこもった作品を、ぜひご覧ください。



28年度入選作品集の表紙 (本会ホームページでご覧いただけます)

第40回神奈川県福祉作文コンクール

最優秀賞 神奈川県教育長賞（小学生の部）

特別な友達

大磯町立国府小学校六年 二宮 珠生



(二宮珠生さん)

登校中にニコニコしながら、手を振ってくれる女性がいる。母が働いている知的障害者施設に通っている女性で、何度か会っているうちに笑いかけてくれるようになった。

知的障害者と聞くと、「怖い」といったマイナスのイメージをいだいてしまうことがあるという。また、家の前を散歩しないでほしいと要望があったこともあるらしい。どうしてそんな言葉が出てくるのだろうか。彼らが何をしたというのか。

私はこの夏、施設の夏祭りに参加した。少し緊張していたら、朝会う女性がいつもと同じ笑顔で近づいてきて、握手をしてくれた。私の緊張は一気に消えた。彼女の名前はNさん。私の母より年上だ。Nさんは私の名前を覚えてほしいとメモを差し出してきた。字が読めているようないやうな不思議な表情を浮かべていたが、一生懸命「たまちゃん。たまちゃん。」と覚えようとしてくれていたことがとてもうれしかった。Nさんは、私のことを喜ばせようと食べ物運んでくれたり、手を引いてくれたり、顔を覗き込んで笑いかけてきたり、本当に一生懸命だった。私はNさんと友達になった。Nさんは施設にいる人たちのことも紹介してくれた。叫び声をあげている人。無心に食べ物にかじりついている人、不思議な話を何度もくり返す人などもいた。確かに、私の周りには人たちは少し違ってはいた。けれども、それが怖いとか、嫌だという感情は私には湧かなかつた。なぜならば、彼らの笑顔がとても自然だったからだ。なんてうれしそうに笑うんだろう、なんて美味しそうに食べるんだろう。その笑顔を見ていたら、愛想笑いをついしてしまう自分が情けなく思えてきた。

知的障害であるため、できないことがあるのも事実。時には他人へ迷惑をかけてしまうこともあるだろう。でも、彼らは一日一日精一杯生きていく。そして心からの笑顔という私たちには欠けている魅力が彼らにはある。私はまだ彼らのことを知らない。もっと障害について知りたいと思った。そしていつか、手助けができるような大人になり、学びつつ支えあっていたらなと思った。今はまず、彼らが「怖い」などと呼ばれる存在ではなく、とても魅力あふれる人たちなんだと伝えていくことに力を尽くしたい。

*本会ホームページで最優秀賞（15作品）を掲載しています。http://www.knsyk.jp/s/tomoshi_center/concour_top.html

■子どもたちの自立にむけて 「かながわ交通遺児援護基金」

交通事故等による20歳未満の遺児とその世帯を支援する「かながわ交通遺児援護基金」では、①小・中学校入学時、中学・高等学校卒業時の激励金の支給、②労災見舞金の支給を受けていない世帯に対する見舞金の支給、③関係団体活動費の助成、④親子交流会やコンサート招待の交流事業等を実施しています。平成27年度に県民の皆さまや企業等から寄せられた寄附金は11件(502万円)で、これらは遺児らへの激励金として44件(220万円)、見舞金4件(40万円)として支給するとともに、基金の預金利子と合わせて交流事業や関係団体への助成金等に活用させていただきます。

「かながわ子ども福祉基金」

萬谷児童福祉基金

親元で生活することができない等、県内の児童養護施設等や里親の下で生活している社会的養護を必要とする子どもを対象に、本会では「かながわ子ども福祉基金」および「萬谷児童福祉基金」を設置しています。

「かながわ子ども福祉基金」は、①私立幼稚園への入園や私立高等学校等へ入学する際の奨励金の支給、②民間アパートに初めて入居する際の自立支援金の支給、③施設長や里親による身元保証の損害賠償事業等に

活用しています。平成27年度までに奨励金を延べ1436件(幼稚園426件、高校等1010件)、自立支援金を延べ84件支給しています。

「萬谷児童福祉基金」は、故・萬谷富子氏から「児童養護施設を終えた者の進学又は自立の援助に」と遺贈された原資をもとに平成19年に創設されました。当基金は果実(利子)のみで運用されており、社会的養護の下で育つ子どもを対象に、4年制大学、短期大学、専門学校等へ入学する際の支度金を支給しています。平成27年度までに延べ83人を支援するという成果を上げています。

各種基金に対する寄附金以外にも、福祉サービス利用者の送迎等に利用される福祉車両、アイスクリームやクリスマスケーキの寄贈、ミュージカルやサーカス、プロ野球観戦等への招待、家庭用洗剤等の生活物資の寄附等、たくさんの方々から温かいご支援をいただき、高齢者・障害者・児童福祉施設利用者の他、生活困窮の状態にある方などの支援として、それぞれの充実した生活環境づくりに生かされています。

今後本会では、寄附者の皆さまの意向を大切に、受入れと配分に努めてまいります。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

(地域福祉推進担当)

ともしび基金への寄附をはじめ、皆さまの温かい心に感謝申し上げます！

【ともしび基金】

▽御食事処釣り船うえ乃▽ともしびショップなのはな▽湘南アフタケア協会▽(有)日栄浴場▽ともしびショップマリオン▽中村浴場▽中島湯▽明德湯▽神奈川県立よこはま看護専門学校▽神奈川県立大船高等学校▽神奈川県厚生福利振興会▽神奈川県立中井やまゆり園▽脇隆志▽神奈川県建設業課▽(福)湘南福祉協会湘南病院▽(福)日本医療伝道会衣笠病院▽横浜市婦人団体連合会▽神奈川県立横浜栄高等学校▽(一財)光之村▽神奈川県立病院課▽ともしびショップさくら運営委員会▽神奈川県立岸根高等学校▽(公財)神奈川県身体障害者連合会▽(公財)神奈川県老人クラブ連合会▽(社)神奈川県高齢者福祉施設協議会▽(N)フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会▽神奈川県心身障害児者父母の会連盟▽神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会▽(社)神奈川県保育会▽神奈川県保育士会▽神奈川県ゆりの会▽神奈川県医療福祉施設協同組合▽(公財)神奈川県福利協会▽(N)神奈川県ホームヘルプ協会▽神奈川県交通遺児家庭の会▽(N)神奈川県障害者地域作業所連絡協議会▽神奈川県手をつなぐ育成会▽神奈川県知的障害施設団体連合会▽やまゆり知的障害児者生活サポート協会▽(公社)神奈川県社会福祉士会▽(福)神奈川県共同募金会職員一同▽県民センター募金箱▽神奈川県警察職員一同▽神奈川県職員一同▽本会職員一同 【子ども福祉基金】▽荒谷昭子▽(株)タックルベリー▽金沢区歌声クラブ 【交通遺児援護基金】▽神奈川県石油業協同組合▽青木繁弘(計1,159,052円)

【寄附物品】▽神奈川県オープン実行委員会▽武枝孝子▽神奈川県定年問題研究会▽山下みゆき▽小澤正一▽(N)日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」▽神奈川県トヨタ(株)



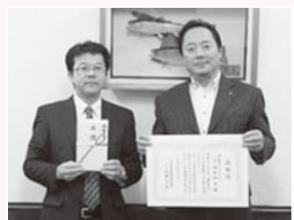
神奈川県トヨタ自動車(株)より県内児童養護施設等へクリスマスケーキをいただき、佐藤修一係長(左)へ感謝状を贈呈



(N)日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」より県内児童養護施設等へミュージカル公演招待券をいただき、吉坂義正本部長(左)へ感謝状を贈呈



歌声クラブより、子ども福祉基金にご寄附いただき、大方園江代表(前列中央)へ感謝状を贈呈



(株)タックルベリーより、子ども福祉基金にご寄附いただき、藤本伸也代表取締役(右)へ感謝状を贈呈